

令和7年度新宿区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名：新宿区立四谷子ども園
施設所在地：新宿区四谷2-6

1-1 活動テーマ

『自らやってみようとする子どもの育成を目指して』
～“やりたいな”が実現できるごっこ遊びの環境作り
や援助について探る（紙に触れ合う中で）～

1-2 テーマ設定理由

園児は日々のごっこ遊びや製作活動で、本物らしさを求め、イメージに近づけようと工夫する姿が見られる。そこで今年度は全年齢に共通して子どもが、ごっこ遊びに使っている紙という素材に着目した。子どもたちの紙を用いた探究を追うことで、本テーマである、自らやってみようとする子どもの育成に迫ることにした。

2-1 活動スケジュール

- 5月 取り組みの方向性を検討
- 7月 ごっこ遊び（2・3歳児研究保育）
- 10月 ごっこ遊び（4歳児研究保育）
- 12月 ごっこ遊び（5歳児研究保育）
- 1月 ごっこ遊び（0・1歳児研究保育）
- 2月 まとめ

3-1 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

学年を超えて3歳児～5歳児が自分で手にとれるよう、8月より4歳児保育室前に様々な種類の紙が置かれた幼児用の教材庫（かみのおうち）を設置した。
素材：色画用紙、広告紙、新聞紙、京花紙を置いてみて、その後、段ボール、つや紙、カラーセロファン、クレープ紙、キッチンペーパーなど



4-1 探究活動の実践 活動の内容

幼児はごっこ遊びの中で紙をどのように使って遊びを楽しんだり、表現や実現したりするために探究していくのかを職員で討議する。乳児は、京花紙や新聞紙を繰り返し使って遊んでいる様子を見て、どのようなことを体験しているか読みとる。また、講師を招聘し、研究保育や日常の保育から子どもの探究している姿について指導助言をもらったり、素材の見直しや保育者の援助や環境について助言や指導を受けたりする。また、ごっこ遊びを展開していきながら、こういった姿が探究につながるか助言を受ける。



いろいろな材質の紙を組み合わせ、自分の作りたいものを作ろうとしている様子

4-2 活動中の子供の声、子供同士や保育者との関わり

- ごっこ遊びに必要なものをイメージして紙のおうちに行って画用紙を取りに行ったり、イメージに合わせて色や素材を吟味している。
- ジュース屋さんごっこでは素材の色に着目し、色に合わせた飲み物をイメージして遊びに取り入れている。
- 様々な紙（和紙、京華紙、画用紙など）の素材を葉っぱに見立て、保育者と繰り返し落ととして、紙の材質の違いを感じて下の仕方を見ている。
- 保育者が作った新聞紙の服を着てみて、役になりきっている。
- 飛行機ごっこの中で、牛乳パックの飛行機が飛ぶように何度も試行錯誤しながら、羽根の位置を付け替えたり、動力のゴムや発射台を工夫している。



飛行機が飛ぶように繰り返し試しながら工夫している様子

5-1 振り返り 振り返りによって得た先生の気付き

- 子どもが自分で使いたいものを自分で探すことが大切であるということを知った。
- 子どもの困りごとや、つぶやきが探究のきっかけになることを知った。
- ごっこ遊びを繰り返し継続して楽しむことで、子どもたちの新たな発見や興味、もっとこうしてみたいなど、新たな探究につながるということが分かった。
- 繰り返しの質が学年によって違うということを知り、繰り返しに焦点を当てるとその年齢に応じた探究が見えてくるということが分かった。
- 探究しているときにたくさんを感じ、経験しているので、どのようなことを経験し感じているのかを読み取ることが大切であることが分かった。特に乳児は、言葉による表現は難しい年齢ということもあり、その姿からより丁寧な読み取りが必要である。



4歳児「次どうしようかな？」



5歳児「本物らしい新幹線になってきたぞ」



1歳児「ビリビリになっちゃった」